

図書館だより

第10号

1984. 6. 25発行

編集兼発行 三重短期大学附属図書館 514-01 三重県津市一身田中野字蔵付157 Ⅱ 0592 32-2342

目

次

図書館長就任にあたって.....	尾崎正利	(1)
ケインズ経済学を勉強するために.....	森岡洋	(2)
私の願い	谷口水穂	(4)
本を読むということ	東福寺一郎	(5)
新規受入図書案内		(6)
ベスト・セラーズ		(12)

図書館長就任にあたって

尾崎正利（附属図書館長）

三重短期大学は、昭和27年設立以来、勤労青年に大学教育の機会を与え、有為の人材を育成し文化の進展に寄与すべく着実にその成果を上げて来た。その中でもとりわけ、短大発足と同時に古河学舎の一隅で図書室としてうぶ声を上げた附属図書館は、歴代図書館長、図書館職員の情熱となみなみならぬ尽力により、短大発足当時の不備を補い、三重県下における社会科学系の専門図書館として、その地位をゆるぎなきものとされたことに多大の敬意を払わねばならない。もちろん本学図書館は、大学附属図書館としての性格上、教育・研究条件と不可分の

関係にあり、三重短期大学法経学会、家政学会における各教員のたゆむことのない研究とその成果の公表が、図書館を一層充実せしめたのは言うまでもないであろう。

ところで、三重短期大学は開学以来30年の間、市財政の危機や全般的な景気後退にもかかわらず、設立目的達成への基盤を確立し、今や、入試方法の改革、単位相互認定制度及び昼夜相互乗入れ制度の新設により、着実に発展への道を歩み続けているのであり、さらに加え、地方に設置される公立大学として新たに地域問題総合調査研究所（暫定的に研究室として発足）を設置し、地方に開かれた大学として、地域研究機関としての職責を果たすべく、新たな地平へと勇躍船出ししようとしている。このような大学発展の中で、附属図書館の果たすべき役割は極めて重要であると思われる。本学図書館は、教

育・研究の用に足りかつそれを促進し得る機能を果たすと同時に、地域の需要を満たし得べき専門図書館としての職責をも全うせねばならないからである。

前者については、昭和59年4月現在、蔵書数38,352冊、受入雑誌1,088種をかぞえ、(59年度日本図書館協会調査分)年間延利用者数も8,000有余名となり、一応の態勢はここに整ったと言えよう。しかし学生用参考図書の不備、洋書の決定的不足等に顕著に見られるこれまでの積み残し部分に加え、施設面についても最早限界に達していることは厳とした事実である。また基礎的な資料(統計書、判決例集等)についても満足し得る状態にない。これらについては、市当局及び教育後援会に事情を理解して頂き、その改善を図ることが急務であると思われる。幸い市当局及び教育後援会にあって、この窮状を理解頂き、58年度より積極的な協力をあおんでいる所であり、本学図書館が名実ともに、三重県下における専門図書館として活躍することが期待されるのである。

地域の需要に応える専門図書館としての役割は、今後の調査・研究にまつ部分が多いけれども、次の点は確認しておかねばならないであろう。まず新設された地域問題総合調査研究所(当)と連携し、研究所における研究の基礎を補い、成果を図書館業務に反映させるための基盤整理が必要である。この点は既に研究室長との間で協議を進めており、関連蔵書の検索についての相互利用化を図ることを初め、緊密な連絡体制を確立すべく検討中である。次に図書館の公開という重要な課題がある。それについては資料、情報を収集中であり、早晚基本的方針を決定すべく検討作業に取りかかる予定である。しかしこの新しい図書館の職務は、先に記したような現在の図書館施設では対応することが出来ないであろう。この面からも関係各位の一層の理解と協力が不可欠である。新しい図書館建設については、岡本元館長(現学長)の尽力により、関係各位の理解が得られ、とりわけ市当局、教育後援会の積極的な賛同が得られたことを特筆

しておきたい。

今度館長職を拝受した私にとってさし当りの、否最大の任務は、地域の需要に応え得る図書館としての職責が十分達成されるように、一步でも目的に近づけるよう、内的充実を図ると共に、新館建設へ向けて一層の理解と協力が得られるよう努めることにあると考える。今後とも、本学教職員並びに関係各位、とりわけ市当局、教育後援会、また大いに御足労を頂かなければならない学長・事務局長はじめ図書館の職員の諸氏にあっては、この大役が全うされるよう強力な御支援を頂ければ幸いである。

ケインズ経済学を勉強するために

森岡 洋(法経科助教授)

筆者は三重短期大学で、経済政策論を担当しており、前期は経済体制と経済政策の理論を、そして後期はマクロ経済学を政策的観点から講義している。マクロ経済学は当然のことながら、ケインズ経済学がその中心となっている。もともと、経済理論を学ぼうとする学生にとっても、ケインズ理論を理解しなければならないことはいうまでもない。さらに、筆者の講義はノート形式であり、また、受講生の多くは、一年生であることから、講義を興味深く聴くことはきわめて困難であると、常日ごろ思っている。そこで、ケインズ経済学を学生自身が独自に勉強するには、本学の図書館で、どのような書物を利用したらよいのかを、述べてみることにする。

まず最初に、ケインズ自身の著書である、「雇傭、利子および貨幣の一般理論」、塩野谷九十九訳、東洋経済新報社、を挙げなければならない。最近、同じ東洋経済新報社から、塩野谷祐一氏により、ケインズ全集の第七巻として、新しい訳本が出版されている。塩野谷九十九氏による翻訳はきわめて評価が高いが、ケインズ経

済学の永年の論争を考慮して、新たに出版された、塩野谷祐一氏の訳本によって、学習する方が学生にはよいのではないか。なお、以下において、この本を簡略して、「一般理論」と呼ぶことにする。もっとも、「一般理論」を経済学についての何ら予備知識なく、読むことは学生諸君にとって、きわめて困難である。そこでまず、岩波新書の、「ケインズ」、伊東光晴著を読むことを勧めたい。筆者が学生の時に、ケインズ経済学に接し、ある程度理解しえた最初の本でもあり、経済学にそれほど知識を持っていない学生にもこれを十分に読むことができる。また、ケインズの「一般理論」が形成された歴史的背景を明らかにし、さらに、ニューディール政策、戦時及び戦後の経済政策の運営に対して、ケインズ経済学にきわめて高い評価を与えた書物として、R・リーキャッシュマンにより書かれた、「ケインズ時代」がある。ケインズ経済学の政策的有効性には何の疑問も持たず、1960年代のニューエコノミックスとしてのケインズ経済学の政策的成功を謳歌する書物なのである。その後のオイルショックに伴うスタグフレーションの発生により、ケインズ経済学への不信が表面化する以前の、アメリカのケインズの経済政策の理念を知るためには面白い。他方、ケインズ経済学を資本主義体制の擁護の手段にすぎないとして、ケインズ経済学を鋭く批判したものに、ソ連の経済学者である、B・C・ヴォローディンによって書かれた、「ケインズ批判」、森弘太郎訳、日月社、がある。この二つの書物は、ケインズ経済学の政策的評価にはきわめて対照的であり、それらを同時に読むときわめて興味がある。ところで、前述の「ケインズ時代」と、同じ立場に立って、理論面から、ケインズ経済学を今日の新古典派としてのマクロ経済学に発展させた書物に、P・サムエルソンによる、「経済学」、都留重人訳、岩波書店がある。なお、サムエルソンはアメリカのケインズの信奉者である、アメリカケインジアンの代表的人物である。この書物は、近代経済学を勉強しようとする学生には必読のものであ

る。ただし、この書物は、版を重ねるにつれて、多少内容を異にしており、新しい版から古い版へと順に読んでいくと、ケインズ経済学の政策的有効性との関係で、アメリカケインジアンの方針思想の変遷を知ることができ、有益である。さらに、前述の「ケインズ批判」と同様に、ケインズの経済政策を批判しているが、資本主義経済の体制にまで言及していない書物としては、石弘光著の「ケインズ政策の功罪」、東洋経済新報社がある。これは、経済政策への有効性が低下し、多額の国債の累積を生み出した、ケインズの、景気調整のための赤字財政政策を批判したものであり、財政政策を本来の社会的必要を満たすためのものに制限しようとする主張している。

最後に、「一般理論」それ自体を読むための手引きとなる書物について述べてみることにする。まず、中山伊知郎編で、「ケインズ一般理論解説」、日本評論社がある。この書物は、昭和11年の東京商大の中山伊知郎氏のプロセミナールの学生の研究報告書であり、昭和14年に出版された。ケインズの「一般理論」の原書が出版されたのは、昭和11年であることから、これはおそらく日本でのケインズの「一般理論」の解説書としては、最初のものではないかと思う。なおそれとともに、中山伊知郎氏の指導があったとはいえ、当時の大学生の学力の水準の高さを知らされるしだいである。このほかに、高橋正雄氏による「ケインズ一般理論研究」、有斐閣がある。これは、マルクス経済学の立場からの、ケインズの「一般理論」の理解の書物である。それゆえ、マルクス経済学に興味をもっている学生には、二つの経済学を比較しながら読んでいくとおもしろいであろう。さらに、「一般理論」のまさに解説書といえるが、塩野谷九十九氏によって書かれた、「原典解説 ケインズ一般理論」があり、「一般理論」の横に置いて同時に読むとよい。宮崎義一氏と伊東光晴氏の共著である、「コンメンタール ケインズ一般理論」、日本評論社がこれと並んである。この書物は、宮崎義一氏と伊東光晴氏によって討

論形式で書かれたものであって、「一般理論」の難解な箇所をうまく説明しており、ケインズ理論の理解を深めるのに、よい本である。これらは、日本の経済学者による「一般理論」の解説書であるが、外国の経済学者によるものとしては、D・ディラード著、「J・M・ケインズの経済学」、岡本好弘訳、東洋経済新報社がある。この本はケインズ経済学の理解のために評価が高く、国際的に知られている。

以上が、三重短期大学の図書館の学生閲覧室と書庫を歩いて、筆者が探し出した書物である。ほかにまだあるかも知れないが、書籍数が少なすぎることをあらためて認識させられたいである。なお、このような単行本の不足をおぎなうためには、雑誌を利用すると便利である。そのためには、「経済学文献季報」、同朋舎出版を参照して、必要な論文を自分で見つけて下さい。

私の願い

谷口水穂（家政科講師）

私には七才と三才の娘がある。昼間接する時間が少ないせいか、下の娘は私が帰宅するとすぐ「この本読んで」とつきまとう。きまってお気に入りの本である。「またか」とうんざりする程、くり返し同じ本を持って来る。少し前までは「はじめてのおつかい」という絵本で、今は「野ねずみのぐりとぐら」。

読み始めて三度目ぐらいになると、私の声に合わせて歌うように声を張りあげる。すっかり暗唱していて、うっかりとこちらが間違うと「ちがう」と抗議する。もう子供の頭の中には物語の情景がとっぷりと入りこんでいるのだろう。上の娘もやはりこの年頃には同じだった。二人共保育園育ちだが、本の他に紙芝居にも目を輝かせているらしい。子供は絵を見ながら、同時に耳でその部分の文章をすぐ暗記してしまう。記憶力の衰えかけた私には羨しい限りである。

小学校に入って少し字が読めるようになった上の娘は、文字を追いかけてながら、前に読んでもらったストーリーを確認しているようである。いま、机に開いているのはアンデルセン童話の『人魚姫』。たどたどしく文字を拾いながらではあるが、さし絵と頭の中にあるイメージを夢中で文章の中に追い求めているのである。毎日2ページが限度のようで遅々として進まないが、私は娘の机にはさわらないようにしている。開かれたままのページは、彼女のイメージの1ページでもあるのだから。そのうちに文章から自在に描かれた情景を把握できるようになり、真に本に親しんでくれるだろうと思うのは、親心であろうか。

ところで私と本との出会い——その鮮明な記憶は小学校の二年のときである。姉が友達から借りてきた『小公女』や『小公子』、『ジェーン・エア』や『嵐が丘』に『クオレ物語』であった。二年生には難しい漢字や表現がたびたび出てきたが、飛ばして読んだ。まい日まい日学校から帰るとものも言わずに読み続けた。頭の中に自分で描ける限りの情景をひろげて、私はヒロインになりきっていた。

もう一つの出合いは日本の歴史に関する本であった。何巻もあるうちのひとつで、大和朝廷から平安時代の出来ごとや人物について著されたもの。この時もやはり私は古代人の先頭に立って大活躍であった。私のために買ってもらった唯一の本で、あちらこちらと持ち歩いているうちに紛失——私の王朝絵巻は突然に閉されたのである。この時を境にして読書の楽しさを知ったように思う。だから娘が本の世界に浸りきっている時には、出来るだけそっとしておいてやりたいと思うのである。

育児の過程で親が子供に教えたいと思うことはいろいろで、かぞえあげればきりが無い。子供が自分の意思で行動するようになる一才頃から「しつけ」が始まり、二才児には食事のことや衣服の着脱、排泄や欲求に対する我慢など、四、五才児には家庭と外のけじめや公共の場で人の迷惑にならないようにすることや他人への

思いやりなどを教えていかなければならない。これは年令相応の教育といえようが、その他に私ができるだけ早く、是非とも教えたいのは図書館を利用する方法である。最近では子供が欲しいというとすぐ親が買い与えるので、子供は面倒な手続きのいる図書館で本を借りるということをしなくなっているように思う。書庫に眠る本に無限の夢を抱いて欲しいのである。塾通いや宿題などで本を読んでいる暇などないのかも知れない。しかしこれから先、欲しいと思う本をすべて自分の物にするのは難しい。小さいうちから気軽に公共の図書館を利用できるようにしておきたいものだ。最近では大人も子供も性急で、てっとり早く結論を知ろうとするあまり、どうも自分でじっくりと調べてみることを後廻しにするように思うのは私だけだろうか——それにつけても最近の私ときたら何と本を読まなくなったことか。

本を読むということ

東 福 寺 一 郎 (法経科講師)

いつぞや、朝日新聞のコラムにコピーライターの糸井重里氏が、本を読むということは本来悲しむべきことである、なぜなら内部に満たされないところがあるからこそ人は本を読むのだ、という意味の文章を載せていたように思う。記憶があやふやなので、もしかすると糸井氏でなかったかもしれないが、私があるとき、人はどうして本を読むのかを考えながら字を追ったことは確かである。

私達は何か知りたいことがあると本を手にする。花の名前がわからなければ植物図鑑を見るし、法律を知るために六法全書をひも解く。フロイトの理論を理解したいのであれば、精神分析入門を読むであろう。このように、私達の知識の中に間隙を見つけたとき、人は本を読むことによって、その穴を埋めようとする。糸井氏の言う“満たされないところ”とは、私達が持っている知識構造内部のこのような間隙を指し

ている。ここで私達に大切なことは、内在している知識の間隙に自らが気づくということである。服に穴があいていることに気づいてはじめてそこを繕おうとするのであり、もし穴の存在を知らなければ、その人は平気でその服を着つづけるであろう。自分の知識の不備に気づいた人は不満を感じ、そうでない人は現状に満足する。不満を感じた人は知識のすき間を塞ごうとして読書をする。しかし、読書することは、往往にして新たなそして時にはより大きなすき間の存在を私達に気づかせてくれる。むしろ、そのような結果になる読書の方が一般であるかもしれない。その意味からすると、私達は、自分の知識構造の間隙を明らかにするために本を読むということもできよう。このいたちごっこを忍耐強くどこまで続けられるか、その度合でその人の知識探求欲の強さを測ることができる。

ところで、私達の知識構造は、はっきり言っても情報を蓄え、知識のネットワークを形成することが可能である。そこで、私達は知識の間隙を埋める目的以外に、どのような知識構造を形成すべきなのか、その指針を得るためにも本を読む。小説を読むとき、哲学者のことにばに耳を傾けると、私達は、人生をどのように過ごしたらよいかを読みとろうとし、あるいは理想的自我を形成し、恋愛や結婚を夢見る。青年期になると乱読しはじめる人が多いが、そもそも青年期とは、乳歯が抜けて永久歯が生えるのと同じように、親の強い影響を受けて少年期までに形成された精神構造が崩壊し、新たに再構築される時代である。これからの自分の人生を支えてくれる新しい価値観を求め、青年は本をむさぼり読むのである。

さて、ここまで述べてきた読書が模索の読書であるとするれば、すでに持っている知識構造の正当性を確認するための読書も存在すると思う。学者があるテーマについて研究しようとするとき、そのテーマに関連した書物を読むことから始める。類書を読むということは、もちろんそれぞれの本に独自性はあるのだが、すでに形成

された知識のネットワークをなぞることによって、知識をより強固なものにする。また、小説や哲学書の中に自分と同じ生き方を見出すことによって、私達は安心し、勇気づけられるのである。

近年、科学技術の進歩に伴い、社会における情報量が飛躍的に増大している。自分が本当に必要とする情報を見分ける暇もないくらい、情報の大波をかぶって四苦八苦しているのが現代人の姿である。昨今指摘されている若者の本離れ傾向の一因も、環境が彼らからじっくり本を読む機会を奪っていることにある。しかし、こういう時代だからこそ、しっかりと自分の行く末を見据え、他者の価値観ではなく自分の価値観によって、読まねばならぬ本を選択する能力が要求されると思う。

新規受入図書案内

総記(000)

データ通信 庄司 茂樹
 人の度胆を抜く法 石川 雅章
 奉天三十年 上、下巻 (新書青 1, 2)
 デュガルド・クリスチー
 世界史における日本 (新書青 80)
 O・B・サンソム
 無限と連続 (新書青 96) 遠山 啓
 世界の酒 (新書青 264) 坂口 謹一郎
 原子核の世界 (新書青 282)
 菊地 正士
 日本の化学工業 (新書青 288)
 林 雄二郎
 日本列島 (新書青 310) 湊 正雄 他
 数学入門 上、下 (新書青 363, 396)
 遠山 啓
 日本国家の起源 (新書青 380)
 井上 光貞
 日本の賃金 (新書青 400) 小島 健司
 円・ドル・ポンド (新書青 403) 牧野 純夫
 日本の大企業 (新書青 436) 中村 孝俊
 日本の化学工業〔改訂版〕 (新書青 438)
 林 雄二郎
 日本の酒 (新書青 525) 坂口 謹一郎
 日本の工業地帯 第二版 (新書青 565)
 山本 正雄

人間性の心理学 (新書青 670) 宮城 音弥
 電子計算機 (新書青 686) 坂井 利之
 知的生産の技術 (新書青 722) 梅棹 忠夫
 人間であること (新書青 746) 時実 利彦
 都市政策を考える (新書青 788) 松下 圭一
 現代経済を考える (新書青 856) 伊東 光晴
 日本の化学工業 第四版 (新書青 903) 渡辺 徳二 他
 新しい価格革命 (新書青 925) 宮崎 義一
 80年代の日本国憲法 (ブックレット 16) 岩波書店編集部
 核兵器と人間の鎖 (ブックレット 17) 岩波書店編集部
 朝日新聞縮刷版 1983, 5~7 朝日新聞社
 GHQ (新書黄 232) 竹前 栄治
 計算機歴史物語 (新書黄 233) 内山 昭
 フレームアップ (新書黄 234) 小此木 真三郎
 三重県勢要覧 '82 三重県企画調整部
 Grand Dictionnaire Encyclopedique Version
 Librairie Tmme 4
 図書館学・情報科学文献の検索および特殊資料
 の利用 国立国会図書館
 貧困 21世紀の地球 (ブックレット 18) 西川 潤
 世界各国の全国書誌 国立国会図書館
 情報と文献の探索 参考図書の解題 長澤 雅男
 20世紀思想家文庫 8 西田 幾多郎
 中村 雄二郎
 中国の妖怪 (新書黄 235) 中野 美代子
 医者と患者と病院と (新書黄 236) 砂原 茂一
 花火——火の芸術 (新書黄 237) 小勝 郷右
 コメンタール 改憲論者の主張 輿平 康弘
 20世紀思想家文庫 9 メルロ＝ポンティ 廣松 渉 他
 ミツバチの世界 (新書黄 238) 坂上 昭一
 転換期の中国 (新書黄 239) 辻 康吾

地震と建築 (新書黄 240) 大崎 順彦
 中東・北アフリカ年鑑 (1981~82年版)
 (財)中東調査会
 20世紀文献要覧大系 12 深井 人詩 他

哲学・宗教 (100)

現代心理学 I~III P. G. ジンバルド
 プランと行動の構造 G. A. ミラー 他
 行動理論への招待 佐藤 方哉
 発達心理学 上,下巻 R. M. リーバート 他
 キルケゴールの講話・選稿集 4 飯島 宗亨
 希望の原理 第1~3巻
 エルンスト・ブロッホ
 認知の発達 I. E. シーゲル 他

歴史 (200)

この目で見たロシア革命 上,下巻 嶋野 三郎
 角川日本地名大辞典 24 三重県
 「角川日本地名大辞典」編纂委員会
 改訂新版 海外生活の手引 第17巻
 大洋州篇 外務省情報文化局国内広報課監修
 国史大辞典 第8巻 国史大辞典編集委員会
 人物書誌大系 1 徳永 直 浦西 和彦
 人物書誌大系 2 壇 一雄 石川 弘
 人物書誌大系 3 幸徳 秋水 大野 みち代
 周恩来選集 上,下巻 森下 修一
 史学研究五十周年記念論叢 世界編,日本編
 広島史学研究会
 図録東西文化交流史跡 齊藤 忠
 日本古代人名辞典 第1~7巻
 竹内 理三 他
 人名よみかた辞典 名の部 日外アソシエーツ
 中世を旅する人びと 阿部 謙也
 反乱するメキシコ ジョン・リード
 パリの聖月曜日 喜安 朗
 多元的古代の成立 上,下 古田 武彦
 そしえて文庫 7 東と西の語る日本の歴史
 網野 善彦
 マクミラン世界歴史統計 1 ヨーロッパ編
 <1750-1975> B. R. ミッチェル

社会科学 (300)

Trust Finance E.S.Meade

The Trust Problem in the United States
 Eliot Jones, Ph. D
 Principles of Business Economics
 James Stephenson
 Corporation Finance Edward S Mead
 The Financial Policy of Corporations
 Arthur Stone Dewing
 外国為替の知識 (日経文庫 5) 谷 根
 金融の知識 (日経文庫 7) 吉野 俊彦
 経済立地の話 (日経文庫 98)
 西岡 久雄
 産業分析入門 (日経文庫 161)
 山辺 孝
 資本自由化と多国籍企業 (日経文庫 187)
 藤原 一郎
 現代の余暇 (日経文庫 218) 熨斗 隆文
 理論経済学 I 評論社編集部
 経営数学入門 (マネジメント新書 8) 市川 洋
 計量経済学入門 (マネジメント新書 17)
 川勝 昭平

アメリカ国民の経済 上,下
 ゲルハルト・コルム 他
 月給 (中公新書 11) 青木 茂
 労働力の長期展望 岡崎 陽一
 産業社会の人間革新 牛窪 浩
 日本の賃金 日本人事行政研究所
 転機に立つ人間社会 M・メサロビッチ 他
 余暇社会への構図 経済企画庁余暇開発室
 国を守る 猪木 正道
 経済数学 宮沢 健一
 現代経済理論のための数学入門
 岡本 哲治 他
 改正 會社法提要 上,下巻 田中 誠二
 企業会計原則 黒沢 清 他
 信託法新論 岩田 新
 信託法論 全 青木 徹二
 信託法通釋 三淵 忠彦
 戦後税制史 (増補版) 佐藤 進 他
 経済統計入門 中村 隆英 他
 財政再建 水野 正一
 '80年代女性の生活 現在と将来
 生命保険文化センター
 高千穂学園80年史
 高千穂学園80年史編集委員会
 図録高千穂学園80年史
 高千穂学園80年史編集委員会
 集中力を育てる 山本 富美代 他
 現代の公社債市場 4,5 日本経済新聞社
 視聴覚教材を創る 梶田 磐 他

資本主義国家の構造 II

ニコス・ブーランツァス

野田良之先生古稀記念 東西法文化の比較と交流 山口 俊夫 他
岩波講座基本法学 1, 2, 7

シュタイナー教育を考える 子安 美知子
林良平先生還歴記念論文集 現代私法学の課題と展望 下 奥田 昌道 他

判例刑法研究 第6巻 西原 春夫 他
国際私法条約集 川上 太郎

新海洋時代に対応する海洋法制に関する研究 総合研究開発機構

衣の民俗叢書 労働着 1, 2 高橋 春子 他

アメリカの証言 日高 義樹
Comparative Dismissal Law B. W. Napier 他

西欧政治思想史 II シェルドン・S・ウオーリン

注釈憲法〔新版〕 伊藤 正己 他
〔新版〕 憲法講義上, 下 小林 直樹

憲法 II, III 芦部 信喜
法学読本 中川 淳

戦後日本教育史 大田 堯
教育学の名著12選 梅根 悟 他

家庭科教育法 東京都私立短期大学協会
西洋教育史 長尾 十三二

二訂新版 政経社教育の資料と扱い方 片山 誠二郎 他

新版 地理教育の資料と扱い方 福島 達夫 他

女性法律家 三淵 嘉子 他
注釈民事執行法 ① 吉野 衛 他

災害と法 植木 哲
米軍基地と市民法 田山 輝明

民法研究 I, II 椿 寿夫
金融取引法大系 第3巻 鈴木 禄弥 他

豊崎光衛先生追悼論文集 無体財産法と商事法の諸問題 官脇 幸彦 他

小川太郎博士古稀祝賀 刑事政策の現代的課題 田藤 重光 他

今村成和教授退官記念 公法と経済法の諸問題 上 遠藤 博也 他

西独株式法 Dr. Bruno Kropff

地方自治の経済学 高寄 昇三
地方財政の改革 高寄 昇三

地方主権の論理 高寄 昇三
コミュニティと住民組織 高寄 昇三

地方政治の保守と革新 高寄 昇三

市民統制と地方自治 高寄 昇三

住民投票と市民参加 高寄 昇三

地方自治の再発見 高寄 昇三

監査役監査制度 久保田 音二郎

会計士監査論 三澤 一

粉飾経理〔二訂版〕 近澤 弘治

戦後労働改革 竹前 栄治

憲法学の基礎概念 I, II 杉原 泰雄

会計監査 久保田 音二郎

例解監査手続 日本公認会計士協会東京会

雲南 萩原 秀三郎

労働法を学ぶ 外尾 健一 他

ワロン選集 上, 下 アンリ・ワロン

ローマ法 第1~5巻 船田 享二

神奈川県・横浜市財政統計 昭和20~55年度

大厩六典

中国封建社会の構造 今堀 誠二

東洋法史論集 第1~3 島田 正郎

昭和58年版 図でみる中小企業白書 中小企業庁

昭和53年事業所統計調査報告第2巻

その24 三重県 総理府統計局

昭和46年就業構造基本調査報告 解説編 総理府統計局

日本の労働時間・休日・休暇の現状 労働省労働基準局

昭和50年国勢調査 集計事項及び結果表様式 総理府統計局

独占禁止法入門 根岸 哲 他

地方自治体における情報公開に関する研究

増補 歴史教育の資料と扱い方 加藤 文三 他

社会科教育の理論 川合 章

社会科教育学 尾崎 梶四郎

法女性学のすすめ 金城 清子

マクロ経済学の再検討 ジェームス・トービン

現代行政法論 斎藤 寿 他

地方行政と争訟 関 哲夫

実践原価計算 太田 哲三

現代簿記 山本 繁

財務会計の論点 武田 隆二

精説連結会計論 大雄 令純

マクロ経済学 新開 陽一

利潤計算原理 岩田 巖

現代簿記精講(改訂版) 山口 年一

大不況下の世界 1929-1939 C・P・キンドルバーガー

反均衡と不足の経済学 コルナイ・ヤーノシュ

国際経済学 C. P. キンドルバーガー 他
 新会計学提要(改訂版) 田島 四郎
 日本の金利構造 黒田 晁生
 監査入門 河合 秀敏
 外交青書 56年版 世界の動き社
 現代の教育学 8 家庭科教育学
 伊藤 富美 他
 行政法 下巻 下山 瑛二 他
 国際私法 三浦 正人
 現代行政法大系 1 雄川 一郎 他
 現代会計〔改訂増補版〕 山本 繁
 商法の諸問題 大隅 健一郎
 新訂 イギリス憲法論 I. ジェニングス
 貨幣・雇用およびインフレーション R. J. バロー 他
 親子会社の法律と実務 田代 有嗣
 憲法と国際環境〔改訂版〕 芹田 健太郎
 ソビエト法概論 藤田 勇 他
 法社会学序説 石村 善助
 新訂 物権法(民法講義Ⅱ) 我妻 榮 他
 現代日本労働問題 隅谷 三喜男
 サミュエルソン経済学体系 5 篠原 三代平 他
 女子労働論 竹中 恵美子
 都市経営をめぐる問題事例 高奇 昇三 他
 臨調批判と自治体改革 高奇 昇三
 江差追分と日本の民主政治 足立 忠夫
 コメンタール「資本」1-4 平田 清明
 河上肇全集 5, 14, 15 河上 肇
 波多野勤子著作集第1~8巻 波多野 勤子
 災害心理学序説 安倍 北夫
 日本の社会科学政策 OECD調査報告
 経済協力開発機構
 社会科学と諸思想の展開 世良教授還暦記念下
 中国経済をみる眼 遊 仲勲
 こんとん君立ちなさい 池田 太郎
 マルクス・エンゲルス著作解題
 歴史科学研究所
 演習ノート国際私法 木棚 照一
 Collected Essays on Economic Theory Vol.
 1, 2 J. Hicks
 連結決算 山本 嘉彦
 伝票会計の実務 竹島 重男
 資金運用表のつくり方(増補版) 中島 信行
 監査役監査の展開 久保田 音二郎
 体系 監査論演習 森 實
 新会計監査提要(増補版) 田島 四郎
 注釈民事執行法 3 不動産執行・上
 吉野 衛 他

法律扶助の歴史と展望 (財)法律扶助協会 他
 自治体問題講座 1~6 池上 惇 他
 レーニン 1902~12 仙波 輝之
 日本外交30年 外務省戦後外交史研究会
 日本政治の変遷 富田 信男 他
 憲法見直し作業覚書 前文関係 上村 干一郎
 日本外交主要文書・年表(1) 1941~60
 鹿島平和研究所
 近代婦人問題名著選集 社会問題編 第1~12
 巻 小泉 郁子 他
 世界的規模における資本蓄積 第I~III分冊
 サミール・アミン
 世界資本主義と低開発 A. G. フランク
 A Practical Approach to Employment Law
 J. Bowers
 Arbeitsgerichtsprotokolle K. Feser 他
 Le Contrat de travail G. H. Camerlynck
 Transfer of Employment P. Davies
 Selwyn's Law of Employment M. Selwyn
 Lectures on Jurisprudence
 子育てほどステキなものはない 梅津 範子
 ケースワークの記録より荒唐する親子関係
 黒川 昭登
 労働判例評釈集 1, 3~5
 東京大学労働法研究会
 民法論集 第1~4巻 星野 英一
 岩波講座基本法学 6 芦部 信喜 他
 ハーメルンの笛吹き男 阿部 謹也
 稲を選んだ日本人 坪井 洋文
 世界の議会 I イギリス 前田 英昭
 秘密結社 セルジュ・ユタン
 推計学の知識 アンドレ・ヴェスロー
 地域の科学 笹田 友三郎
 昭和47年労働経済の分析 労働省
 昭和50年国勢調査報告第3巻 その24
 三重県 総理府統計局
 日本人のこころ 梅棹 忠夫 他
 日本人とユダヤ人 イザヤ・ベンダサン
 新しい世界像を求めて 科学技術と経済の会
 西暦2000年の世界と人類 I, II
 アメリカ科学文芸アカデミー
 都市計画入門 田住 満作
 新経済学演習講座 統計学 森田 優三
 資本の純粹理論 I F. A. ハイエク
 厚生経済学 I A. C. ピグウ
 ORの一手法としての線型計画法 野志 功
 新数学シリーズ22 経済のための線型数字
 二階堂 副包

自治体における民間委託・雇職の法的検討
青木 宗也 他
Modeling of The United Kingdom Economy: an
introduction K. Holden 他
Abkürzungsverzeichnis der Rechtsprache
H. Kirchner 他
昭和55年国勢調査報告 第2巻 三重県
総理府統計局
教師の自殺 勝俣 暎史 他
財政危機の克服 和田 八束
高齢者扶養と社会保障 佐藤 進
国家と財政の理論 小谷 義次 他
租税の経済理論 本間 正明
財政学入門 佐藤 進
行財政改革の経済学 八代 尚宏
年金改革論 社会保障研究所
日本の公企業 岡野 行秀 他
財政の計量分析 能勢 哲也
租税政策の効果 石 弘光

自然科学(400)

井尻正二選集第10巻 井尻 正二
岩波生物学辞典 第3版 山田 常雄 他
長寿の100カ条 近藤 宏二
あなたも名医 三重健康管理研究所
ロマンチック・サイエンス 楠田 枝里子
新説養生訓 杉 靖三郎
トポロジーの世界 野口 宏
近代統計概論 宮澤 光一
共立数学講座 ③ 線形数学 I 入江 昭二
線形数学 竹内 哲
線型代数と線型計画 カルペレヴィチ 他
基礎数学1 線型代数入門 齊藤 正彦
数学諸論大要 渡邊 孫一郎
代数学と幾何学 溝口 幸豊 他
位相解析入門 入江 昭二
数学ライブラリー32 多変量解析入門
河口 至商
サイエンスライブラリー数学=6 微分積分学入
門 一松 信
数学 4つのキーポイント (高校生新書4) 若林 実
確率と生活 エミール・ボレル
現代代数学 ミシェル・ケイザンヌ 他
ベクトルと行列 ジャック・ブートルー
井尻正二選集 1 井尻 正二
自然界と人間の運命 PART ①, ②
コンラート・ローレンツ

精神の科学 1, 3~5, 10 飯田 真 他
生態学的健康観 鈴木 継美
食料・栄養・健康 食糧栄養調査会
人工知能の基礎 ダニエルG. ボブロー 他
新数学シリーズ20 差分方程式 高橋 健人
新数学シリーズ 5 行列の行列式 古屋 茂
行列と行列式 佐武 一郎

工学及び家政学(500)

日本鋼管株式会社七十年史
日本鋼管(株)七十年史編纂委員会
三整振30年の歩み 三重県自動車整備振興会
この人にきく 日本土木工業協会
ポケット家政学辞典
57年版 三重県環境白書 三重県生活環境部
工業政策 美濃口 時次郎
日本工業構成論 森 喜一
石油及天然ガス 山本 研一
工業経営論叢(三)技術的進歩の理論
大木 秀男

頭のいい743の実用集

ホームライフセミナー
エンジン 有賀 基
日本のエネルギー危機 鎌田 勲 他
原子のエネルギー 三島 良績 他
昭和50年代のエネルギー 通商産業省
電子計算機の話 竹中 直文
世界の自動車 高岸 清
昭和58年版 環境白書 環境庁
荒廃するアメリカ P・チョート 他
日本人の食生活 NHK放送世論調査所
生活様式の理論 吉野 正治

産 業(600)

三木商工名鑑 昭和五十二年版
三木商工名鑑作成委員会
天王寺鉄道管理局三十年写真史
天王寺鉄道管理局
近畿日本鉄道最近20年のあゆみ
近畿日本鉄道
東海の電信電話 第2巻
日本電信電話公社東海電気通信局
三重の漁港 三重県漁港協会創立30周年記念
三重県漁港協会
協同組合論 八木 芝之助
鉄道交通全書 第14巻 小運送論
中野 金次郎

日本産業構造の課題(1)-(4) 稲葉 秀三 他
 日本列島改造論 田中 角榮
 The Principles and Practice of Commerce
 from The Times Munenao Yamasaki
 Foreign Trade Business Methods
 Denzo K Koyama
 市場開発の話 (日経文庫103)

堀出 一郎
 流通革命 (中公新書4) 林 周二
 地域開発と金融 相川 尚武
 ニッポン商人の黄金時代 邦光 史郎
 図説・農業白書(57年度版) 農林統計協会
 動乱を生きたニッポン商人 邦光 史郎
 アジア諸国の海事法の研究 志津田 氏治
 国際貿易と投資の純粋理論 M. C. ケンブ
 マーケティング・リサーチ入門

吉田 正昭 他
 新・貿易関係法 金沢 良雄
 昭和58年版 通商白書 通商産業省
 昭和58年版 通商白書 各論 通商産業省
 昭和60年の日本列島 新全国総合開発計画の
 解説 経済企画庁総合開発局長 宮崎 仁
 産業構造の長期ビジョン 通商産業省
 昭和50, 51, 52年度版 産業構造の長期
 ビジョン 通商産業省
 構造転換に挑む日本産業

日本長期信用銀行産業研究会
 新時代に挑戦する日本の産業
 日本長期信用銀行産業研究会
 新版 日本産業入門 山田 亮三
 昭和84, 85年 日本産業の現状

通商産業大臣官房調査統計部
 昭和28年 日本貿易の現状
 通商産業省通商局通商調査課
 7.0年代の通商産業政策 産業構造審議会
 価格競争 近代営業研究グループ
 困土科学 島津 康男
 変化の中の資源問題
 経済審議会資源研究委員会
 国際化時代の資源問題
 経済審議会資源研究委員会

芸 術 (7 0 0)

愛知県陶磁資料館 愛知県陶磁資料館
 重要文化財洛中洛外図
 相撲のわかる本 北出 清五郎
 ユニークな美術館めぐり 朝日新聞社
 日本の美術 19206~209

運動処方 加賀谷 熙彦 他
 体育科学 第10巻 石河 利寛
 ランニング ワンポイント・コーチ
 山地 啓司 他
 新訂運動生理学概論 宮下 充正 他
 体力・健康概論 幸山 彰一 他
 体育原論 永井 康宏
 湖国の十一面観音 石元 泰博

語 学 (8 0 0)

日本語の世界16 丸谷 才一
 English Grammar S. Yamazaki
 文法本位 綴文和譯法 小柳 篤二
 日本語の世界 3 貝塚 茂樹 他
 心理言語学 ジョン・モートン
 英語副詞の用法 S. グリーンボーム
 田崎のアメリカーライフ辞典 田崎 清忠
 文化記号学の可能性 丸山 圭三郎
 アメリカの生活とことば 三浦 昭
 シェイクスピアの文法 大塚 高信
 アメリカの風物 中内 正利
 <新編>コトバ, ことば, 言葉 上野 景福
 図録 アメリカのことば 山崎 英夫
 アメリカのユーモア 竹村 健一
 米語の成立 トマス・バイルズ
 ことばの背景 松原 秀一
 クラウン仏和辞典 大槻 鉄男 他
 サラリーマンの出直し英語 長崎 玄弥

文 学 (9 0 0)

北見のおばば 松田 鐵也
 鈴鹿嶺 位田 藤郎
 だいじょうぶマイ・フレンド 村上 龍
 戻り川心中 連城 三紀彦
 時代屋の女房 村松 友親
 私の好きな古典の女たち 瀬戸内 晴美
 ブランデン英文学講義(1) E. Blunden
 油断ノ 堺屋 太一
 破断界 堺屋 太一
 良寛を語る 相馬 御風
 ウラルを越えて 和泉 賢治
 文学にみられる生と死 高木 きよ子
 ラールス 世界文学事典 河盛 好藏
 文學としての聖書 齊藤 勇
 曖昧の七つの型 ウイリアム・エン
 この百年の小説 中村 真一郎
 女性と文学 エレン・モアズ

中國文學 第1～8巻，別巻 中國文學研究会
 復刻中國文學 別冊 総目次 筆者索引 年譜
 天馬の如く 上，下 三好 徹

東京 新宿

- 1位 大成功への戦略 今原 禎治
- 2位 科学技術の新しい流れにどう対応するか 三田出版会
- 3位 ピーターパン・シンドローム D・カイリー
- 4位 素足のアイドルたちスペシャル 渡辺 達生
- 5位 虚航船団 筒井 康隆
- 6位 「仏法と宇宙」を語る・123 池田 大作
- 7位 ひなげし語録 アグネス・チャン
- 8位 2010年宇宙の旅 A・C・クラーク
- 9位 鈴木その子のスーパーダイエット 鈴木 その子
- 10位 運命逆転の手相術 栗原 すみ子

ベスト・セラーズ

名古屋

- ちくま正文館
- 1位 古文の読み方 藤井 貞和
- 2位 2010年宇宙の旅 A・C・クラーク
- 3位 箱根の坂・中 司馬 遼太郎
- 4位 「億」への挑戦 筒井 康隆
- 5位 虚航船団 筒井 康隆
- 6位 逃走論 浅田 影
- 7位 社会科学を超えて 平山 朝治
- 8位 権力の解剖 J・K・ガルブレイズ
- 9位 完全茶話・下 薄田 泣重
- 10位 現氏物語 大野 晋

大阪

- 旭屋書店
- 1位 虚航船団 筒井 康隆
- 2位 英語は度胸
- 日商岩井イトピア編集部
- 3位 若き大阪バイタリテイ 渡辺 一雄
- 4位 続々こころの診察室 清島 啓治郎
- 5位 科学技術の新しい流れにどう対応するか 三田出版会
- 6位 漂流記1972 三田 誠広
- 7位 創る売るその発想 吉田 忠雄
- 8位 箱根の坂・中 司馬 遼太郎
- 9位 2010年宇宙の旅 A・C・クラーク
- 10位 四谷怪談 廣末 保

文庫・新書

- 吉祥寺 弘栄堂書店
- 1位 晴れ、ときどき殺人 赤川 次郎
- 2位 世界は破滅を待っている 赤川 次郎
- 3位 結婚案内ミステリー風 赤川 次郎
- 4位 湯殿山麓呪い村・上 山村 正夫
- 5位 充ち足りた悪漢たち 赤川 次郎
- 6位 母子変容・上 有吉 佐和子
- 7位 いつか誰かが殺される 赤川 次郎
- 8位 夏服を着た女たち I・ショウ
- 9位 愛する嘘も知ってますか 山口 洋子
- 10位 ひめぐと 津村 節子

(日本読書新聞 '84. 6. 18)

告知板

1 夏休みの長期貸出を下記のとおり行ないますので、利用下さい。

記

貸出期間：7月23日から9月18日まで

貸出冊数：1人5冊以内

2 夏休み中下記のとおり臨時に閉館しますので、利用下さい。

記

閉館日：9月12日から18日まで(14日、15日は除く。)

閉館時間：17時00分～20時50分
